

平成 29 年度 計画策定部会・パブリックコメントにおける意見  
(障害者基本計画関係分)

項目	意見
趣味、余暇支援の充実	○ 文部科学省は生涯教育に力を入れる方針を示している。このことを念頭に置き、障害者が社会人になってからできるだけ能力を落とさないように、生涯教育として趣味などができるような環境づくりをしていただきたい。(第2回計画策定部会)
地域との連携、高齢者福祉施策との連携の強化	○ 介護保険と障害福祉サービスの利用者が、65歳以降、介護保険へスムーズに移行するための支援が求められる。(第2回計画策定部会) ○ 共生社会の実現のためには、障害福祉だけではなく、高齢化等、障害と他の分野を重ね合わせた問題、家族、地域といった深いテーマへの対応が課題である。障害だけでなく、複合的な問題にどのように取り組むか考え、具体的に表現していくことも重要だろう。(第3回計画策定部会)
障害や障害者への理解推進(学校や保育施設、幼稚園等との連携)	○ 障害や障害者への理解推進に関しては、小学生への理解促進等のため、学校教育等と連携した取組が求められる。(第3回計画策定部会) ○ 学校へ出前講座のようなイメージで、障害に関する講座などが行えると良い。(第3回計画策定部会) ○ 障害者に対する市民への理解を深める取り組みについては、障害者週間のイベント等に限らず、学校教育の中で取り組んでほしい。(パブリックコメントでの意見) ○ 市内に小中の特別支援学校がなく、市外の特別支援学校に通っているが、暮らしている地域との交流の機会が少なく、情報の入手が難しい。(パブリックコメントでの意見)
住まいの確保	○ 住み慣れた地域に暮らし続けたいので、知的障害者のグループホームの誘致をしてほしい。(パブリックコメントでの意見) ○ 障害者の自立を促すため、住まいの確保は重要であり、ぜひ推進してほしい。(パブリックコメントでの意見)
災害時の支援体制等の充実	○ アンケート調査結果から、避難所での生活等に不安を感じている様子が見え始めるため、障害者の視点での防災や災害対策の充実が求められる。(第4回計画策定部会) ○ 災害対策については、啓発だけでなくリーフレットや避難マップ等の作成も必要だろう。(第5回計画策定部会)

項目	意見
ワンストップ型の相談窓口委の機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「相談支援センター・えぼっく」の位置付けや、どの機関がワンストップ型の窓口を担うのか等、継続的に議論していく必要がある。(第5回計画策定部会)</li> <li>○ 「相談支援センター・えぼっく」は、(障害者総合支援法で定められた相談支援センターとしてではなく、)市独自のワンストップサービスを提供するための機関として、働きや役割を大きく打ち出してもいいのではないか。一層の周知や理解促進に向けた取組も必要だろう。(第6回計画策定部会)</li> <li>○ ワンストップの相談窓口の必要を強く感じている。「えぼっく」等の人材育成も含め、一層の充実を望む。(パブリックコメントでの意見)</li> </ul>
難病患者への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 難病患者への支援体制は都道府県が主体で、市町村では、進んでいないと感じる。「家族支援コーディネーター」のような人を設置するなど、難病患者やその家族の悩みを受け止め、寄り添う体制を目指してほしい。(第5回計画策定部会)</li> </ul>
保護者への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者が障害のある児童の介助のために就労機会が限られるようなことがないよう、配慮を願う。(パブリックコメントでの意見)</li> </ul>
「親なき後」の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来、成年後見などはうまく機能して子供が安心して生活して行けるか強い不安がある。</li> </ul>
周知・広報の仕方等の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障害福祉サービスや、障害福祉に関わる広報全般を、わかりやすく、利用しやすくしていただけることを望む。障害福祉サービスを利用したくても、何をどう利用すればいいかわからないため、系統立てて相談をすることが難しい。(パブリックコメントでの意見)</li> </ul>